

# ダルニー通信

vol. 87

特集

## コロナ禍の今、見える 支援者様と 奨学生の絆

2~3p ... コロナ禍における  
民際センターの活動について

4~7p ... ベトナムの奨学生から  
お手紙が届きました！

6p ..... **新連載①** メコン5カ国現地スタッフ紹介

8~9p ... 支援者様を探しています

10p ..... プロジェクト紹介  
プレゼントセット

11p ..... **新連載②** 今は昔「民際センター物語」

# コロナ禍における 民際センターの活動について

2019年の年末に、その数か月後、歴史の教科書に載るような、新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に直面すると誰が予想したでしょうか。

昨年12月に中国・武漢市で報告された原因不明の肺炎は、「COVID-19」（新型コロナウイルス感染症）と名付けられました。国内で初めての感染者が確認されたと発表があったのが1月16日です。その日の厚労省のリリースにはこうあります。「1月14日、神奈川県内の医療機関から管轄の保健所に対して、中華人民共和国湖北省武漢市の滞在歴がある肺炎の患者が報告されました」。国立感染症研究所で検査し、15日に新型コロナウイルスへの感染が確認されたとしています。

3711人の乗員乗客を乗せたダイヤモンド・プリンセス号が横浜港に着岸したのが2月3日、船内の集団感染により、日本にとって、新型コロナウイルス対策で最初の大きな試練となりました。

この頃からマスクがコンビニエンスストアやドラッグストアから徐々に姿を消すようになったと記憶しています。2月下旬になると、それまで感染の中心だった中国だけではなく、韓国やイタリアで感染者が急増してきました。3月の3連休が終わり、その後すぐ24日には、7～9月に予定していた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期が発表されました。これを受け、東京都の小池知事が立て続けに臨時会見を行うようになり、ロックダウン、オーバーシュートという言葉を持ち出し、感染爆発の重大局面だと強調し、週末の不要不急の外出自粛を都民に要請しました。それ以来、新型コロナウイルス関連のニュースを耳にしない日は無いほど、世界中に感染拡大し、かつて経験したことのない危機に遭遇しているという実感が日増しに強くなっていきました。

民際センター事務局では、このころより出勤が出来なくなることを想定し、在宅勤務の際のガイドラインの策定と各自が効率を落とさずに仕事ができるようにICTによるオンライン会議の準備を整えました。3月25日に、東京都知事の自粛要請を受け、26日より事業の継続と感染拡大防止、すべての職員やその家族、ボランティアや関係者の皆様の感染リスクの低減や安全を確保するため、事務局職員の在宅勤務、ボランティア受け入れの一時停止などの措置を講じました。

そして4月7日、安倍首相は東京都や大阪府、福岡県など7都府県を対象に5月6日までの期間で「緊急事態宣言」を発出しました。さらに16日には「緊急事態宣言」の対象を全国に拡大。5月4日には「緊急事態宣言」を5月31日まで延長することを決定しました。

この間、民際センターとして、支援国への対応と支援についてどうあるべきかを議論し、各国の状況を鑑み、教育支援の観点から、支援国の子どもたちを、この危機から守るためには、何をすべきなのか各国事業所に確認をしています。日本国内の状況も不安が多い中、学校にとって、そして子どもたちが教育を受けることを継続するために本当に何が必要なのか十分見極めた上で支援活動を実施すべきであるという判断から、その方針を発表しました。

(詳細：[www.minsai.org/oshirase/corona\\_minsai-statement/](http://www.minsai.org/oshirase/corona_minsai-statement/))

また、3月27日と4月24日に、支援国の新型コロナウイルス感染症発生後の感染状況と学校の閉鎖・再開について、また、経済の状況など詳細をホームページにて報告させていただきました。

各国の感染状況はもとより、当時、民際センターとして皆様に最もお知らせすべきと考えたことは、今回の新型コロナウイルス感染症の

影響による経済活動の停滞、移動制限、学校の閉鎖、国外との物流制限など、特に貧困地区は大きな影響を受け、教育より生活が優先され、経済的理由により学校への就学を断念する子どもたちが増加していることでした。今現在においても経済の停滞は続いており、中学へ行けない、中途退学の子どもたちが増えています。

同時期に、国連機関の国際労働機関（ILO）と国連児童基金（ユニセフ、UNICEF）も共同報告書を発表し、児童労働者数は2000年以降、9400万人に減少していましたが、今回の新型コロナウイルスの世界的感染拡大（パンデミック）により、国連（UN）は、世界の児童労働者数が20年ぶりに増加し、数百万人の子どもが労働を強いられる恐れがあると警鐘を鳴らしました。

パンデミックが世帯収入を直撃しており、援助がなければ、多くの家庭が児童労働に頼らざるを得ないとも述べています。また、両機関は、新型コロナウイルス対策による学校閉鎖により、児童労働者数が増加したことを示す証拠が増えていることに言及し、現在130か国以上で、10億人以上の児童・生徒が一時的な学校閉鎖の影響を受けており、また学校が再開されても、保護者が学費を払えなくなっている恐れがあると警告しました。この事実は、まさにEDFグループ全体が今こそ必要な支援は何かということをご様に強くお知らせしようとしたことと同じでした。

5月25日、約1か月半ぶりに、全国で緊急事態宣言が解除されました。

民際センター事務局も、在宅勤務から出勤・在宅のシフトにてコロナ禍における新しい働き方を実施すると同時に、この支援国の状況を皆様にお伝えするため、ダルニー奨学金のキャンペーンを実施し、皆様に協力を呼びかけました。（詳細：[www.minsai.org/news/darunee-cp2nd-corona-crisis/](http://www.minsai.org/news/darunee-cp2nd-corona-crisis/)）

特別定額給付金を原資として民際センターに寄付するなど、温かいお言葉も多数寄せられ、残念ながら奨学金希望者すべてに提供することは

できませんでしたが、7月20日締めのお知らせ、カンボジア、ベトナムの奨学金に加えることができました。この場をおかりしてあらためて御礼申し上げます。

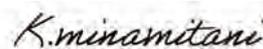
さて、支援国の学校の現状ですが、各国とも2020年度は変則的な暫定スケジュールで再開され（一部では閉鎖のまま）、2021年度の新学期からは通常年のスケジュールに戻るよう調整されています。しかし、感染拡大の状況によっては変更も十分あり得る状況です。\*8月17日時点  
日本においても、第2波と呼んでよいのか7月から東京から全国に一気に、特に若者への感染が増加し、医療体制の逼迫や死者数の増加など、予断を許さない状況が続いています。

支援国を含む世界全体では、新型コロナウイルスの累計感染者数は、すでに3,200万人を超え、世界保健機構（WHO）は、仮にワクチンが開発された場合でも世界の死者数は200万人に達する恐れがあると警鐘を鳴らしています。

最後になりますが、民際センターとして、このようなコロナ禍で、メコン地域の教育に注力した国際協力NGOとしてどのような活動をすべきかをご支援をいただいている皆様と共有することは、とても大事であると考えています。民際センターが支援する5か国の状況を随時報告させていただき、コロナの影響により、子どもたちが、教育を受ける権利が損なわれないよう、何が必要なのか、何をすべきか、各国事業所と確認をしながら、その使命を果たしていきます。また、必要に応じて、関係団体とも協力して、困難な状況を打開するため尽力すると同時に、不安な状況の中、人と人との「絆」をより強く意識して、大切にしていきたいと思っております。

皆様方ご自身も直面されているご苦勞を拝察いたしながらも、引き続きご支援の程何卒よろしくごお願い申し上げます。

公益財団法人 民際センター  
事務局長 南谷 勝典



(2020年9月27日記載)

コロナ禍における  
手紙を通した  
生徒と支援者様の  
心の交流



# ベトナムの奨学生から お手紙が届きました！

日本の支援者への新型コロナウイルス感染症の影響を心配し、ベトナムの支援地域の生徒や奨学金担当教師から何通ものお手紙が届きました。その中の2通と支援者のご返事を紹介します。

## 川田 啓一 様

私の名前は、ドゥ ヴィエット タンです。タイビン省 ブウ ツ 地区にあるミン ラン 中学校の2年生です。川田様とご家族のご健康と幸せを願いながら、この手紙を書いています。新型コロナウイルスの感染拡大は全世界に広がり、ベトナムの経済に与える影響も大きく、多くの人々が大変厳しい状況に直面しています。私は、いつも日本の皆様が安全であること、この困難を乗り越えられることを心よりお祈りしています。

私が受け取っている奨学金は、川田様が一生懸命働いて稼いだお金だとわかっています。こうして、援助をいただいている「自分は恵まれている」といつも感謝しています。特に、今回の新型コロナウイルス感染拡大で、よりいっそう、自分は周りの人たちよりも、幸運であることにあらためて気づかされるのです。

私自身の両親、そして、友人の両親も、感染拡大を理由に雇用先から解雇を言い渡され、収入が全くななくなっています。多くの家庭では、感染拡大が収まった後でさえも、子どもたちを学校に通わせるのに十分なお金がないことが予想されます。私の友人や、私の幼い弟たちも、この先、学校に通い続けられるかどうかわかりません。しかし、私の場合は、川田様からの奨学金のおかげで、学業を継続できるので、心から安心しています。あなたには、どれだけ感謝の言葉を伝えても足りないです。



勉強するタンさん

現在、感染拡大防止のため学校は閉鎖されていて、再開の知らせが来るまで、私たちはまだ自宅待機をしなければなりません。学校に戻り、先生や友人たちと再会し、新しい知識を得ることができるよう日が1日も早くやって来ることを、楽しみに待っています。そして、近い将来、川田様がベトナムを訪れ、私の故郷、学校、クラスを見に来られることを心待ちにしています。私の住む町の人は貧しいのですが、皆とても優しく、おもてなしの心にあふれています。川田様とベトナムでお会いできる日を心待ちにしています。

あなたとあなたの愛する人たちが、健康で平穩に暮らせますようお祈りしています。



タンさんが書いた手紙

## 親愛なる ドウ ヴィエット タンさんへ

こんにちは！お手紙をいただき、ありがとうございます。  
ございます。

新型コロナウイルスの感染は全世界、地球的な規模の課題になっており、人々を苦しめ続けています。日本でもこの数日間で感染者が急増しています。この状況を一刻も早く乗り越え、平穏な日常生活が戻ってくることを願っています。このような状況の中で、タンさんからお手紙をいただき、久しぶりに幸せな出来事に出会えたことに感謝しています。ベトナムの言葉はわかりませんが、直筆のお手紙を拝見し、とても丁寧できれいな文字からタンさんの気持ちが伝わってきました。

また、写真も拝見することができました。兄弟3人仲良く元気な姿を見て微笑ましく感じました。すてきなものをお送りいただきありがとうございました。

お父さん、お母さんも解雇になったとのことで厳しい状況となりましたが、ご家族のみなさんで力を合わせて、この状況を何とか乗り越えられるように日本から祈っています。タンさん、ご家族の皆様も、感染防止に最大限に注意して、ご自身の大切な命を守ることに努めてください。どんな状況になっても、タンさんが中学校を卒業するまでは、経済的支援を継続させていただくことを固くお約束いたしますので安心してください。

ベトナムには、未だ行ったことがありませんので、機会があれば是非一度、足を運んでみたいと思っていますし、あなたにも是非、直接、お会いしたいとも思っています。お父さま、お母さまにもよろしくお伝えください。

一緒に、この危機を乗り越えましょう！！

川田 啓一



川田啓一さん（ご夫婦で）



タンさん（一番左）と二人の弟

## ドウ ヴィエット タンより

この手紙が書かれたとき、新型コロナウイルス感染予防のために学校は休校でしたが現在は再開しています。



カジーさん

まず、皆様にご挨拶の言葉と、心からの感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。私の名前は「K' Di (カジー)」です。マ族というベトナムの少数民族で、現在、南ベトナムのドンナイ省ディンクワン地区のグエンティンミンカイ中学校3年生です。

ベトナムは雨季の真っ最中で、この手紙を書いている今も外は土砂降りです。このような天気になると昔のことを思い出します。私は非常に貧しい家庭の、4人兄弟の1人として生まれました。一番上の

兄は、障害を持って生まれ、学校へ行くこともできず、23歳の時に亡くなりました。もう1人の兄と姉も、勉強が大好きだったにも関わらず、学校へ行くことはできませんでした。両親が学費を払うことができなかったからです。

私は6歳の時にポリオ（小児麻痺）にかかり、そのことが原因で足に障害が残っていますが、何とか中学校を卒業したいと全力を尽くして頑張っています。もしも支援者の皆様からの奨学金という突然の奇跡がなければ、貧しく障害を持つ私のような子どもは学校を中途退学せざるを得ないという、兄たちと同じ運命が私を待ち受けていたと思います。

私は毎日、往復3キロを歩いて通学します。他の人にとっては何てことはない距離ですが、不自由な足を引きずりながらのこの道のりは、私にとって単なる学校に勉強に行くための通学路ではありません。自分自身の不幸な運命と闘いながら、毎日一步一步明るい光の見える未来に向かって歩むということなのです。

中学校卒業という、1つのゴールがもうすぐやってきます。この4年間、私の足はなんとか十分な強さを持って学校への道のりを支えてくれました。そして、努力するという強い心と自信を与えてくれました。EDF が私の人生と共に歩んでくれ、支援者の皆様がいつも私のそばに寄り添ってくれていたからです。”ありがとう”という言葉では足りず、なんといいか分からないのですが、EDF は私の恩人であり、支援者の皆様は私にとってヒーローです。皆様は私の運命を変え、私の未来を救ってくれました。本当に心の底から、惜しみない愛情とともに、この感謝の気持ちを伝えたいと思います。

今後、EDF がさらに発展し、貧しい子どもたちへの奨学金支援がさらに広がっていきますように。そして、支援者の皆様がこれからもご健康で、社会にその愛がもっともっと広がっていきますよう望んでいます。

K' Di (カジー) より

カジーさんお手紙ありがとう。私は35、6年前にペタンクの試合でベトナムに行ったことがあります。「ペタンク」はフランス生まれの競技です。砲丸投げのようなボール（8～12ポンド）を投げて2～3人1組で2チームがお互いにピットという目標球に近づけるゲームです。ピットは直径3cm位で軽い球形をしており、ボールで飛ばされたりしますから、距離が変わりたいへん楽しい競技です。運動量は少ないですが、仲間と和気あいあいと時間の経つのを忘れてしまいます。82歳の私にとって程よいスポーツです。カジーさんが、たいへん不幸を抱えながら、頑張っている姿を想像し、もっとできることがないかと思っています。人間誰もが一回の人生です。精一杯頑張ってください。「明るい光が差す未来に向かって歩む」と素晴らしい気持ちを持っているカジーさんに、私も嬉しく思います。頑張りましょう！それではお元気で。

京都西北ロータリークラブ 藤井 眞一

新連載

# メコン5カ国 現地スタッフ紹介

Vol. 1

メコン5カ国にある、EDFの各国事業所。そこで働く私たちの大切な仲間であり、皆様からいただいたご支援を、心をこめて子どもたちに届ける現地スタッフを紹介していきます。今回は、タイの事業所で23年間勤務しているノックさんと、ラオスの事業所で20年間勤務しているケオさんを紹介します。

ノックさん タイ

私の名前は Wichitr Nilphuy です。ノックと呼ばれています。趣味は、映画鑑賞、ネットサーフィン、ジョギングとバドミントンです。1997年から EDF-Thai (タイ事業所) で働き始めました。きっかけは、友人から求人募集を聞いたことでした。

現在、ICT システムマネージャーをしています。私にとって、農村地帯で貧しい子どもたちの状況調査をする仕事はとても貴重な経験です。これまでは、貧しい家庭の実際の現状を目にすることはなかったからです。貧しい生徒たちが学ぶ機会を得て、希望を持っていく姿に喜びを感じます。EDF グループで働けることは私にとって幸せで、このように社会に貢献している団体の一員として働けることがとても価値あることだと感じています。

日本の支援者様は、外国であるタイの子どもたちを助けてくださる本当に親切な方々だと思います。恵まれない子どもたちに、たいへん価値のある学ぶ機会を与え、さらに進学したいという夢を叶えてくださり、心から感謝申し上げます。



ケオさん ラオス

私の名前は Phonesavath Phangthong、ニックネームはケオです。趣味は料理、読書、運動です。EDF-Lao (ラオス事業所) で、2001年から働き始め、奨学金とプレゼントセットなどのプロジェクトを担当しています。これまで20年近く、ダルニー奨学金事業に関わり、農村地域の貧しい子どもたちに教育支援と、地域社会へ貢献ができてることがとても嬉しいです。さらに、教材セットを学校に届けることを通しても、多くの子どもたちに支援が及ぶのを感じます。

また、日本から支援者様グループが学校を訪ねてくださり、奨学生たちが笑顔と笑い声で満たされた姿を見る時、本当に嬉しい気持ちになります。奨学金は農村地域の子どもたちの教育の発展のためにたいへん重要なもので、その地域の活性化につながり、教育レベルの向上をもたらしています。

EDF グループの一員として働けることは私にとって誇りです。チームワークを学ぶことができると共に、農村部などで地域社会を助けることができます。プロジェクトに関わる中で、受けるより与えることの大切さを学ばされます。そして貧しい地域が少しずつ発展し、子どもたちの教育レベルが向上し、子どもたちの笑顔が増えて、よりよい将来を描けるようになっていく姿を見るのがとても嬉しいです。

日本の支援者様は親切で献身的な方々だと思います。これまでのご支援に、お礼を申し上げます。皆様のご支援は教育の発展に非常に重要であり、その助けにより子どもたちは健やかに大人へと成長し、今度は家族を養うことができるようになります。ラオスから皆様のご健康とご多幸を祈っています。



# 支援者様を探しています

“私を支援してくださった方が現在どうしておられるのか知りたい”と、タイの事業所に問い合わせてくれた元奨学生の2人。民際センターに登録されていたご住所やお電話番号に問い合わせてみたのですが、連絡がつかず、2人を支援してくださった支援者の方々を現在も探しています。彼女たちの成長した姿と感謝の心を、支援者の方々に時を経た今お届けできればと思っています。

これを読まれる皆様にも何か心あたりがあれば、ぜひ民際センターまでご一報ください！



ダオルアン・サワンセーン  
当時(1995～1997年)、兵庫県にお住まいだった  
支援者「山野 邦子」様を探しています。

私はダオルアン・サワンセーンと申します。現在、ヤソートン県にある小中学校で英語の先生をしています。私はヤソートン県カムクアンケオ郡トゥンモン町にあるバーンマプリック校の中学生だった1995-1997年に、3年間ダルニー奨学金をいただきました。

そして、中学校を卒業して、郡で有名な高校に進学する夢が叶いました。ダルニー奨学金を得たことがいかに素晴らしい機会を与えてくれたのかと、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。高校を卒業して、ウボンラーチャターニー・ラジャパット大学で英語を専攻しました。その時は外部の奨学金と政府の学資ローン、学校の長期休暇にはアルバイトをして授業料や生活費を補填しました。

そして、2005年に学士課程を首席で卒業することができました。卒業後は、遠いところで働くよりも、自分が生まれ育った地元に貢献したいと思い、教員採用試験を受け、公務員として生まれたヤソートン県の小中学校で英語を教えるもう15年になります。現在、教鞭に立つ以外に、EDFの奨学金担当教師としての役割も与えられ、とても光栄に思っています。奨学生を選考する段階で生徒の家庭状況を調べに行くのですが、その時はいつも自分が幼かった頃を懐かしく思い出します。昔私が得たような機会を家庭の状況が良くない全ての子どもたちが得られればと願っています。一方、私もその機会を与える側の人になりたいと思い、昨年EDFを通じて寄付をさせていただくことにしました。これからも引き続き支援を継続していきたいと思っています。



最後に、まだ、お目にかかったことはありませんが、私と私の家族の為に奨学金を支援してくださった「山野 邦子様」にとっても感謝しております。タイの地方の1人の子どもに教育の機会を与えてくださり本当にありがとうございました。そのご支援のおかげで今の私があります。また、タイの子どもたちに今まで教育の機会を提供してくださった全ての支援者の皆様、EDFのスタッフの皆様、益々のご幸福とご活躍をお祈りします。心からの感謝をこめて

ダオルアン・サワンセーン



ルンアルン・ドゥアンピムトンさん (30才)  
 当時 (2001~2008年)、神奈川県相模原市南区に  
 お住いだった支援者の「西川 裕子」様を探しています。

日本のお母さん・西川裕子様、民際センターの皆様へ

お元気でお過ごしでしょうか。私は、タイで元気に暮らしています。今日は、支援して下さったお母さんと、この支援を取り持ってくれた民際センターの皆様にお礼を申し上げたくてお手紙を書きました。

あらためまして 2002 年からの中学校と 2005 年の高等学校教育を受ける機会を与えてくださり、本当にありがとうございます。おかげさまで私は、その後故郷を離れ、専門学校に入学し無事卒業することができました。

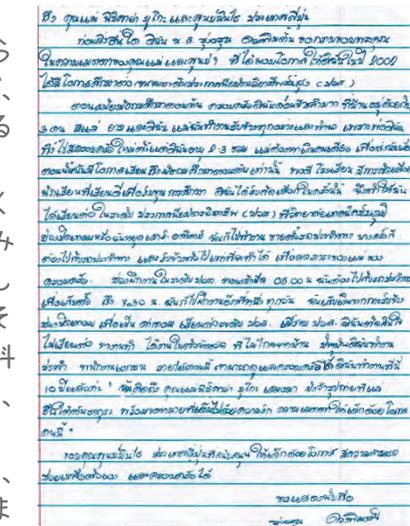
当時、私の家族は、母、祖母との 3 人で、生活は非常に苦しく、母は日雇いの仕事を掛け持ちして何とか家族を養っていました。父は、私が 3 歳の頃、家族を捨て、間もなく再婚したので頼りにはできなかつたのです。そのような状況ですから、私は小学校を卒業したら働かなければならないと思っていました。ですが、ダルニー奨学金を受け取り、中学、高校に進学することができたのです。

支援していただいていたころ、朝は、学校へ行く前に路線バスの停留所で切符切りの仕事をし、休みの日もそのバス会社で雑用をして生活費を稼ぎました。母の負担を少しでも軽くしたかったのです。その中から、少しずつ、専門学校に行くための授業料を貯金しました。その頃から、卒業後は故郷で就職し、母を助けようと決めていました。

現在、私は民間企業の正社員として働いていて、今年で勤続 10 年になり、収入も充分で安定しています。私が今このように恵まれた環境で働くことができるのは、日本のお母さんのご支援があったからこそです。

日本のお母さん、いつも懐かしく想っています。お便りと一緒に桜の木の下に立つお写真を送ってくださいましたね。私は、その写真を今でも大切にしています。私にこんなチャンスを与えて下さったその愛情と慈悲のお心を思うと感謝してもしきれません。

そして日本の民際センターの方々へ。ダルニー奨学金は、1 人の子どもに希望を与え、自立し家族を支えるチャンスをくれました。このような機会をくださいましたことに深く感謝いたします。お母様とご家族のご多幸を心よりお祈り申し上げます。



ルンアルンさんからの手紙

ルンアルン・ドゥアンピムトン



仕事場でのルンアルンさん

# ＼ 民際センターのプロジェクトの一つ / プレゼントセットのご紹介！

～プレゼントで子どもたちの学ぶ心をさらに応援しよう～

ダルニー奨学金を支援している奨学生にプレゼントを贈ることで、さらに学ぶ心を応援しよう！というのがこのプロジェクトの始まりです。家庭環境に恵まれず貧しい暮らしをしているタイやラオスの子どもたちは、これまでプレゼントをもらったことがない子も多くいます。遠い日本からのプレゼントが、生涯忘れられない思い出となり、学ぶ心をさらに励ますものとなるでしょう。



## 特徴

### ① 現地スタッフが選ぶ

支援国の事情をよく知った現地スタッフが、日常的によく使われる教育に有益なもの（文房具・日用品）を選びます。



### ② より多くの物を



同じ金額でプレゼントを購入するなら、物価の安い現地で購入の方が、より多くの物を子どもたちに提供することができます。さらに、文房具（ノートやボールペン）はプレゼントをもらった生徒がクラスの友だちや兄弟姉妹にも分けることができるように、数量を多めにしています。

### ③ 確実に渡す

ダルニー奨学金で既に支援している奨学生を指定してプレゼントすることができます。  
\*支援している生徒がない場合は、貧しく支援を必要としている生徒に贈ります。



支援対象国 ラオス・タイ

支援金額 1口 8,000円

随時募集

スケジュール

申込

4～5ヶ月後

奨学生への寄贈

1～2ヶ月後

ご支援者様へのサンクスレター送付

サンクスレター

支援生徒の手書きメッセージ入りのポストカードが届きます。

支援品内容例

ノート、単語帳、ペン、色鉛筆、消しゴム、修正液、ものさし、筆箱、本、Tシャツ、タオル、お弁当箱、水筒、バックパック、目覚し時計など

あなたのプレゼントが、子どもたちにとって初めてのプレゼントになるかもしれません。学ぶ心を励ます支援、ぜひご検討ください！

詳しくは

<https://www.minsai.org/activity/project/present/>



# 今は昔 民際センター物語



公益財団法人 民際センターは、今年で設立 34 年目を迎えました。現在の事務所は、中央区日本橋ですが、当初は港区青山。職員もすっかり入れ替わり、当時のことを詳しく知る人はいません。職員も断片的に聞くことばかりだった当時の話を秋尾理事長が執筆し、本号から連載で紹介し、懐かしい話も飛び出します。皆様も職員と一緒にタイムスリップして民際センターの歴史をたどってみてください。

## 民際センター事始め

人生、全て人との出会いから始まると言っても過言ではありません。1986 年、在日留学生「北海道国際交流のつどい」の参加者一行 150 余名を連れて上野駅から夜行寝台に乗り、翌朝、青森から青函連絡船で函館へ。甲板で笙を吹くタイの学生サクダさんとの出会いがありました。縁があり、翌年彼の父親の故郷であるタイの東北イサーンの村を訪問した時のことです。村人総出の歓迎会で、隣にいた女の子を胡坐の中に抱っこし、歌と踊りを楽しみました。翌朝、小学校を訪問。1 年生のクラスにその女の子がいたのです。これがダルニーちゃんとの出会いでした。村に戻ると村長と 1 人の母親が訪ねてきて、「息子は勉強が良くでき、中学進学を希望しています」と話し、サクダさんがその息子の教育支援をすることになりました。学生の間際で！と驚いた私に、彼は「この村から中学校

へ通う子どもはいません。働ける年になると皆出稼ぎに行ってしまうのです。ダルニーもきっとそうでしょう。教育支援は、年 1 万円あれば充分です」と言うのです。私も 1 口とその話に乗り、その女の子の中学教育が可能になることを期待してシンボリックに「ダルニー奨学金」と命名しました。国際交流から国際協力の分野へ歩を進める模索の旅での出来事です。この地域で NGO 活動する人材を探していると、欧米系の NGO で勤務するオイさんとの出会いがありました。1972 年のタイ学生運動に参加した筋金入りの社会運動家。私もベトナム反戦運動に参加した青春時代があったので意見が合いパートナーになって欲しいと依頼しました。その後、帰国し、友人に呼びかけ、41 万円が集まり、奨学金としてオイさんに送金。1988 年春のことでした。



当時のダルニーちゃん

## 1 「マイ・ページ」をご利用ください!

「マイ・ページ」は、支援者様と奨学生、そして民際センターとのコミュニケーションを劇的に向上させるためのツールです。

ご利用いただくことで、今までメールやお電話にて都度ご依頼をいただいていた支援者様の住所、電話番号、領収書発行先などのご登録情報の変更が、ご自身で可能になります。また、年に2回のEDFグループからの郵送物でしか確認することができなかった支援履歴、支援状況表、奨学生写真等を、PC又はスマートフォン、タブレットから確認することができます。是非とも、ご利用ください。

◎ ご利用方法について  
www.minsai.org/oshirase/mypage

## 3 民際センターを紹介してください

皆様のブログ、SNS、ホームページなどで民際センターを紹介してください。ロゴや写真、記事の提供などは事務局へご依頼ください。

## 2 ボランティアさん募集中!

民際センターの活動は、多くのボランティアさんに支えられ、随時ボランティアさんを募集しています。

内容は、書類封入、切手整理、データ入力、翻訳、広報資料作成等のボランティア活動があります。

活動場所は、民際センター事務局やご自宅など、活動内容によって異なります。現在、アドビ・イラストレーター等を用いて広報資料(ダルニー通信やカレンダー)をデザインしていただく方が必要です。基本在宅での作業となります。ご興味のある方は、民際センターまでお問い合わせください。随時、ご相談に応じます。

## 4 「支援者の声」を募集しています

皆様の声を民際センターのホームページ「支援者の声」(www.minsai.org/activity/voice)やダルニー通信等で紹介させていただきます。ご支援された経緯、奨学生とのエピソード等、文章、動画、何でも結構です。事務局までお寄せください。

### 事務局 Q & A

#### Q 忘れずに支援するためにはどのような方法がありますか?

**A** クレジットカードによる寄付にて自動継続による引き落としをご選択ください。

#### Q 友人が「ダルニー奨学金の寄付を始めてみたい」と言っています。詳しい説明を聞くことができますか?

**A** お電話やメールでお問い合わせください。また、事前にご連絡の上、事務局にお越しいただけましたら職員が直接ご説明いたします。Web会議も可能です。

#### Q 終活を一緒に考えてくれますか?

**A** 相続による寄付、遺言書の書き方などの遺贈について、ご支援者様のご要望をお聞きしながら、専門家を交え一緒に考えさせていただきます。是非ご相談ください。

#### Q 支援している奨学生に会いに行けますか?

**A** 基本的に可能ですが、各国の状況によります。訪問される場合は、必ず事前に民際センターにご連絡ください。

現地事業所から各国の政府機関に申請し、許可が必要な場合があります。

#### Q 民際センターは、メコン5カ国を支援していますが、どの国を支援して良いのかわかりません。どの国が一番支援を必要としていますか?

**A** 民際センターが支援しているメコン5カ国の農村地域などはいずれも貧しく支援を必要としています。毎年の支援状況により変わりますので、その都度お問い合わせください。もしくは、ご支援の際に「一番支援が必要な国」とご明記ください。

【編集後記】 年明けには考えもしなかった新型コロナウイルス感染拡大の生活への影響。「緊急事態宣言」発令後、生活は一変し、遠方で暮らす高齢の両親に会うことや友人との外食も控えなければならない鬱々とした日々の中、支援者を気遣う奨学生や奨学金担当教師からの手紙が続々と民際センターに届いたのです! 支援者様からもお返事をいただき、思いがけず優しい心のふれあいに会うことができました。これからも皆様の善意を必要としている子どもたちへ支援を届けよう! とお思いを新たにしました。(山)



----- 活動をご覧いただけます -----

- ◆フェイスブック: facebook.com/minsai.org
- ◆ツイッター: twitter.com/minsaiorg
- ◆インスタグラム: instagram.com/edf\_japan

----- 郵便振替でのご支援はこちらからお願いします -----

ゆうちょ銀行振替口座: 00160-7-664928

◀ 表紙の写真 ... 給食を食べるタイの少女。

▶ 「ダルニー」とは ... 民際センターが奨学金を募り1対1の教育支援を始めるきっかけとなったタイの女の子の名前。現在、民際センター・タイ事業所の職員として働く、4児の母。

\*EDF: Education Development Foundation、民際センターを含む各国事業所の総称名

このダルニー通信は2020年10月に編集されました。

ダルニー通信87号 2020年12月1日発行 発行人: 秋尾晃正

## 公益財団法人 民際センター

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7F  
TEL: 03-6457-5782 FAX: 03-6457-5783  
Eメール: info@minsai.org ホームページ: www.minsai.org



公益財団法人  
**民際センター**